

「職業講話」実施報告

1. 日 時：2024 年 10 月 3 日（木） 13：50～15：40
2. 学校名：彦根市立金城小学校
3. 対象者：第 6 学年 全生徒数 111 名 3 クラス
4. 講 師：*Web デザイナー 有限会社ノイハイト 代表取締役 岡本三四二 様
*JICA 国際協力員 JICA 関西 森川真秀 様
*ブライダルプランナー マナーハウス写風館 ブライダルコーディネータ 上林聖佳 様
*救急救命士 彦根消防署本部 救急救命士 岩崎貴大 様



Web デザイナー

Web デザイナーの仕事をする前は商社で仕事をされておられ、ドイツやフランスに住んでおられたとのこと。また、コンピュータの仕事にも関わられていました。その時に経験したことや技術・知識を活かして仕事をする。さらには社会の役にたす、ひとのために役立つ仕事、喜ばれる仕事、さらには長く続けられる仕事をしたいと考えられ、この仕事を選ばれたそうです。

仕事で使われるカメラ動画を撮る撮影機、やカメラを持参していただき生徒に触れてもらいました。いずれもプロが持たれる高価な道具でした。



JICA 国際協力員

JICA の仕事とは、世界の困っている国・人を助け、共に良い世界を作ること。困っている国とは、日本やアメリカ、EU に属する国などのように経済的に潤っている国と違って、開発途上国のことを言い、産業が十分に発展しておらず、経済力が十分でない国のことを言います。

では経済力が十分ではないとは、貧困な状態、環境衛生の悪化（感染症が発生）環境汚染が起こっている。また、学校で勉強したくても授業が受けられない教育機会の不足があったり、働きたくても働けない雇用機会の不足などが起こったりして、社会不安に陥り紛争が起こっています。

魚釣りを例にして、人を助けるとは、魚釣りをしている人が釣った魚をお腹が減っている人にあげるのではなく、魚の釣り方を教えることで、教えてくれた人がいなくても自分たちで魚を取り食べていくことができるようになります。日本は開発途上国の人とお互いに成長するため、自助努力を後押しし自律的發展をすることを目指して活動してきました。言い換えれば、その国の開発を担う人づくりをしています。講師が活動されていたニカラグアでは、琵琶湖の海の子と同じような活動をしている話をされました。ニカラグアでは琵琶湖の 1.6 倍もあるマナグア湖があり、そこではエスクエラ・フロタンテという船があり、海の子と同じような活動をしていますがお金がないために小さな船ですが、そこで子供たちはマナグア湖の調査をしながら一生懸命学んでいるという話をされました。生徒は講師のクイズにも答え、楽しく学んでいました。



ブライダルプランナー

結婚式は大切な人が隣にいる奇跡の時間です。それを作るのがウエディングプランナーの仕事です。大切な人とは、これから一緒に生きていくパートナー、今まで育ててくれた親、いつもそばにいてくれた友人、日頃お世話になっている様々な方々です。その大切な人々へ「想い」を届けるのが結構式です。結婚式は、料理のシェフ、パティシエ、スタイリスト、カメラマン・・・など、たくさんの専門家が協力して作り上げていく仕事です。その中心で、お客様と関わるすべての専門家を繋ぐのが、「ウエディングプランナー」の大切な仕事です。

習い事毎日送り迎えしてくれて「ありがとう。」毎日お弁当作ってくれて「ありがとう。」毎日洗濯してくれて「ありがとう。」いつも話を聞いてくれて「ありがとう。」いつも見守ってくれて「ありがとう。」結婚式には、「ありがとう」という言葉で溢れています。このようにお話は優し言葉で溢れていました。



救急救命士

救急救命士は医者のように根本的な治療はできませんが、苦痛の軽減・身体の安定が目的であり、現状維持させながら適切な病院に搬送する役目を担っています。彦根市では年間 5920 回の出動があり、1 日あたり約 18 回出動しています。その他現場での生々しい話や、活動の重要性を話されていました。

彦根市では、消防士が全員で 168 名、そのうち災害現場で仕事をする人が約 128 名、残りの人は現場で仕事をする人のために道具を揃えたり、情報を連絡したりするなどして、みんなで協力して活動しています。

人の命を救うという使命感、人を命を救えたという達成感・喜びなどが生徒に伝わったと感じました。

以上

2024 年 10 月 14 日
「仕事人と語ろう！」G.
松原弘保